



労働安全衛生・保安防災

労働安全衛生/化学物質リスク低減



2020年の主な取り組み／実績



ISO45001認証を 取得

(御殿場工場)



労働災害強度率・度数率(単体)

0%



基本的な考え方

当社は、働く人の安全と健康確保は事業活動を行う企業の社会的責任であり、全てのステークホルダーからの要請であるという認識のもと、働きやすい職場、安全な職場の提供を通して、安全文化の醸成と定着、そして従業員の幸福度向上を目指しています。

安全衛生体制

当社は労働安全衛生活動において、各拠点の安全衛生委員会の年間活動計画を基に各種予防活動を実行しています。拠点単独では対応できない全社的な課題については、総務本部長をトップとする安全衛生連絡会で検討し、拠点を越えた水平展開が必要な施策の実施状況についても情報を共有しています。このような組織体制のもと、化学物質による薬傷災害や発火事故、機械や重量物による重篤な災害の予防に取り組んでいるほか、万が一労働災害が発生した場合の徹底した安全対策の実施とその水平展開を進めています。

当社の安全衛生管理体制について

<https://www.tok.co.jp/csr/employees/conditions.html>



ISO45001認証の取得

近年、ステークホルダーからCSRに関するご質問、ご要望を受けるケースが増えてきています。弊社においてもCSR方針の策定を行い、その1つの要素である労働安全衛生パートに関するマネジメント体制の強化を進めてまいりました。このような背景から、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の認証取得・拡大を進めております。また、この活動を通じて、従業員の高齢化や省人化対策、メンタルヘルス対策といった各種安全衛生上の課題解決等を図ります。

2020年は、御殿場工場で国内拠点初となるISO45001の認証を取得しました。現在、2023年までに国内全拠点での認

証取得を目指し準備を進めています。

また、当社はRBA行動規範の趣旨に沿った取り組みにも着手しています。その一環として、郡山工場において、設備の修理・点検等における「ロックアウト・タグアウト」*1ルールを整備し、設備の誤作動・誤操作による事故を防ぐシステムの運用を開始しました。今後、郡山工場における運用状況を見ながら、他拠点への水平展開を進めていきます。

同工場は、2020年から2021年にかけてのRBA*2監査受審を通じ、当該団体の行動規範に合致した職場であることを証明いただきました。今後も当工場をはじめとするグループ会社各拠点の従業員および関係会社従業員にとって、安全で働きやすい職場を作るためのさらなる体制強化を目指します。

*1 ロックアウト:機械・装置等の起動装置に鍵をかけ動かないようにすること
タグアウト:ロックアウト中であることを表示することで、他の人が誤操作しないようにすること

*2 Responsible Business Alliance:電子機器メーカーやそのサプライヤーから構成される、サプライチェーンにおける労働者の安全・権利を遵守するための企業同盟

労働災害リスク低減活動への取り組み

・リスクアセスメントの強化

2020年は過去に発生した挟まれ・巻き込まれ事故、薬品による薬傷災害、重量物の転倒事故等を教訓に、拠点毎に重篤度の高いリスクの低減活動を推進しました。加えて、非常作業におけるリスクアセスメント&危険予知(RAKY)活動を開始し、次年度における活動強化ポイントを設定しました。また、GHS分類を活用して化学物質の危険有害性の判定を行い、薬傷災害リスクを低減する「薬傷災害予防策としてのリスクアセスメントの活用」が評価され、2021年5月に日本化学工業協会より「レスポンシブル・ケア賞 努力賞」を受賞しました。

・腐食性の高い物質や毒劇物の取り扱いに関する社内基準を制定、運用開始

当社では、半導体関連製品を製造する際、腐食性を持った化学物質を使用しているため、日頃より製造ラインや作業方法の見直しを進めるとともに、同じ化学物質を使用する拠点間で安全対策の情報を共有することで、さらなるリスク低減に努めています。2020年は、前年策定した「腐食性の高い化

学物質の取り扱いに関する社内指針の内容をさらに充実させ、社内基準として制定、運用開始しました。

・内部監査や第三者審査の意見を取り入れた改善活動を推進

昨年より開始したISO45001の内部監査は、他拠点の内部監査員を積極的に起用することで、労災対策や環境汚染対策の情報共有の場として活用しています。また、外部機関による審査は、化学物質の取り扱いや静電気対策、労災対策等、第三者目線で評価や意見を頂戴できる貴重な機会として捉え、改善活動への取組みに繋げています。

労働災害防止活動

当社ではCSR方針に紐づく労働安全衛生方針を掲げ、事業活動を行ううえで働く人の安全確保および健康保持を最優先事項と位置づけ、職場環境における事故・災害・疾病の防止を推進することで、安全文化の醸成を図っています。特に労働災害においては、各拠点の安全衛生委員会で防止活動を展開しながら様々な要素について維持・向上を図ってきました。加えて、事故や労働災害が発生した場合の緊急処置等を定めたマニュアルの整備や、計画的な従業員教育・訓練、従業員の安全意識の醸成など、グループ全体で安全レベルの向上に取り組んでいます。

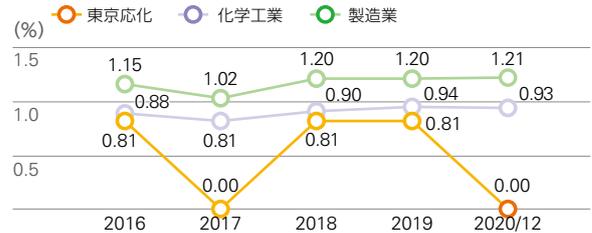
2020年は7件(休業災害0件、不休災害7件)の労働災害が発生しましたが、災害度数率は0%を達成しました。幸いにも重篤な労働災害は発生しませんでした。いずれもリスクの見直しと対策を講じて再発防止を図っています。今後も労働災害「0」を目標に、リスク低減活動および従業員の安全意識向上に努めていきます。



今後の課題と取組み

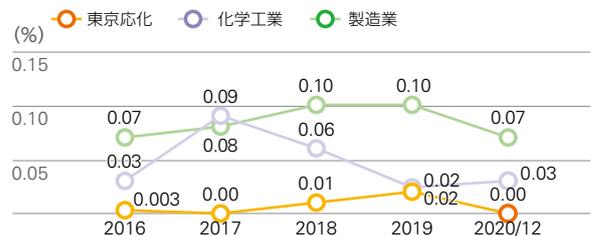
当社は労働安全衛生方針において、働く人の安全確保および健康保持を最優先事項と位置づけていますが、ここでいう「働く人」とは、当社グループの従業員に限らず、当社グループの作業環境下で労務提供を行う社内外のすべての人を指します。今後も各国・地域における労働安全衛生関係諸法令を遵守するのはもちろんのこと、引き続き各拠点でのISO45001の認証取得を目指すとともに、労働災害を防止する強固なマネジメントシステムの構築に努めていきます。

労働災害度数率(単体)(%)



※度数率:100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数であり、災害発生頻度を示す。
 度数率=(労働災害による死傷者数/延実労働時間数)×1,000,000
 (労働災害による死傷者数=1日以上休業を必要とした死傷者の数)

労働災害強度率(単体)(%)



※強度率:1,000延実労働時間あたりの労働損失日数であり、災害の重さの程度を示す。
 強度率=(延労働損失日数/延実労働時間数)×1,000
 (延労働損失日数=労働災害による死傷者の延労働損失日数)
 化学工業および製造業のデータ出典:厚生労働省「労働災害動向調査」

tok's Human Resource

台湾東應化社
 銅鑼工場 工場管理部
 Max Peng



台湾においても
 供給者責任を果たしながら、
 「労働災害ゼロ」の達成を目指す

台湾東應化社銅鑼工場は、主に台湾のお客様への製品供給を目的に2014年に設立された工場です。お客様は製品の品質のほか、環境や労働安全衛生に対する意識も高く、工場設立の翌年にはISO9001とISO14001の認証を取得しました。2017年にはISO45001認証取得に向けた活動を開始し、安全衛生に関する方針を策定しました。これらの方針を遵守するとともに、各作業のリスク評価を実行してリスクの予防・改善を図り、従業員に対する教育や緊急対応訓練を強化しています。このような取組みの継続により、2019年にISO45001を取得することができました。今後も半導体に欠かせないフォトレジストのトップメーカーとしての供給者責任を果たしながら、「労働災害ゼロ」の達成を目指し、労働者の安全と健康の確保、働きやすい環境づくりに努めます。